

医療機関における退院支援に関与するソーシャルワーク・プログラム策定の試み

- 院内スタッフ、機関に対する働きかけに焦点化して -

上智大学 高山 恵理子 (3271)

小原 眞知子 (東海大学・2601) 山口 麻衣 (ルーテル学院大学・5165)

キーワード：退院援助、プログラム策定、メゾ・レベル

1. 研究目的

医療機関においてソーシャルワーカーに期待される役割に「退院支援」があげられる。特に、心理社会的課題を持つ患者群の退院支援は、ソーシャルワーカーにとって責務を伴う重要なものであり、この領域での実践が的確に行われるためのプログラム策定は、喫緊の課題である。本研究では、ソーシャルワーク（以下、SW）実践の評価指標の作成を最終的な目標に、医療機関における退院支援に関与するSW実践のプログラム策定を試みた。本報告では、そのうち特にメゾ・レベル（対院内スタッフ・機関）に対する働きかけに焦点をあて報告する。各項目のもつ意味を明確にすると共に、医療機関におけるSWプログラムの特性について考察を加える。

2. 研究の視点および方法

「望ましい実践（good practice）」を行っている医療機関のSW実践から実践項目を抽出することを目的として、6名の調査協力者による5回のフォーカス・グループ・インタビュー（FGI）を実施、実践報告とグループ討議を行った。その後、FGIの内容を逐語録化し、質的手法による分析を実施した。尚、分析にはMAXQDA10を使用した。

退院援助プログラムの対象患者群は、入院助産、HIV、神経難病、高次脳機能障害、がん、慢性腎不全（血液透析）とした。調査協力者の所属機関は、特定機能病院1、地域医療支援病院1、その他の病院3（大学病院1、回復期リハ1、回復期リハと療養病床1）、診療所1である。報告は、実施・評価内容（(1)実際に行っていること、(2)行っていないが必要であると認識していること、(3)SWとして評価されていること/されたいこと）を7実践レベル（对患者・対家族・対病院内スタッフ・対病院組織・対地域関係者・対地域ネットワーク・対社会全体）別に記載する様式によった。全出席率は83.0%、FGI延時間は22時間であった。

3. 倫理的配慮

調査にあたり、研究目的、方法、プライバシーへの配慮、調査結果の学会等での報告等について書面にて説明し、調査協力者及び機関責任者より書面による承諾を得た。尚、本調査については、東海大学の倫理委員会より承認を受けた。

4. 研究結果

院内スタッフに対する実践は、「個別患者支援に関わる項目」と「チーム形成に関わる項目」に整理された。それぞれの下位項目は表1の通りであった。個別患者支援については、専門性にもとづき思い切った患者・地域に対するアセスメントを基盤としながら、そ

表1 院内スタッフに対する実践

個別患者支援	「患者・家族に対する思い切ったアセスメント」「帰る地域のアセスメント」「治療計画への反映を意識したSWアセスメント提供」「チームと患者のつなぎ」「家族と職員の感情的な行き違いの回避」
チーム形成	「カンファレンスの参加・調整」「院内各部署との的確な情報交換」「患者とスタッフのクッション材となる」「SWの方針をチーム/病院の方針とする」「実践している内容の意味を共有する」「SWの強みと限界を認識する」「援助プロセスの定式化」「地域と病院の橋渡し」

これをスタッフの動きを見極めながら示し、患者とスタッフをつなげる項目が挙げられた。チーム形成に関しては、援助プロセスの定式化をはじめとする体制づくり、その前提となる、チームとしての実践の意味・意義の共有に関する項目が挙げられた。

表2 機関に対するソーシャルワーク実践

病院機能を滞らせない	「患者満足度への貢献」「医療費未納を防ぐ」「的確なベッド稼働への協力」 「転院困難患者に対応」「病院開催研修事業への貢献」
地域と機関の橋渡し	「地域に対する窓口としての役割」「地域に対する広報を担当」
病院理念を意識した実践	「病院理念を道しるべとする」「病院の理念の再確認を組織に促す」
SWの理念の組織での具現化	
機関変容目的の行動	「院内業務の標準化」「院内システム作り」「病院機能を強化する」 「SW機能を病院内に広げる」「社会情勢を病院に翻訳する」
SWによるSW部門のマネジメント	「業務の標準化・ガイドライン作り」「SWの力量向上を意識する」「目前の仕事と業務改善のバランスを考える」「プログラムの目的・機能を明確にする」

機関に対するSW実践における項目は表2の通りであった。病院機能を滞らせない点のみではなく、病院理念・SW理念を具現化、機関変容を目的とする取組み項目が挙げられた。また、SW部門の自身によるマネジメントも機関に対する項目として挙げられた。

5. 考察

本報告では、望ましい実践を行っているSW部門のプログラムにおけるメゾ・レベルの項目と着目点を明確にした。その中で、個別患者支援のための具体的な取組みと共に、患者・家族に対する支援体制の形成、SWの理念の具現化、機関の変容の促進など、チーム・機関としての退院援助プログラムの開発・定着に関わる項目があげられた点、これらの活動に際して、病院の理念を意識している点が明らかになった。SW実践のプログラム推進に関わる項目がメゾ・レベルの実践に組込まれている点は、第二次機関である医療機関における特徴であると考えられた。また、病院の理念の意識化については、病院の目標とSW理念のすり合わせに際して、有用な観点であると考えられた。本調査は、対象が6機関である点で限界を示す。従って、本結果を踏まえ、さらに対象を広げた調査を実施することは今後の課題である。本報告は、「ソーシャルワークの評価方法と評価マニュアル作成に関する研究」(研究代表者：大阪市立大学教授 白澤政和)の成果の一部である。